

【実践事例（7）】

（巨理町立逢隈小学校）

地域住民や関係機関等と連携して災害時の対応を確認した避難訓練

【「避難訓練チェックリスト」（みやぎ避難訓練指導パッケージ作成委員会）を活用した事例】

準備物

- 「避難訓練チェックリスト」
（みやぎ避難訓練指導パッケージ作成委員会）
- 避難訓練の実施計画
- 校内の見取り図
- バインダー、筆記用具

参加者

地域の見守り隊員、PTA、地域の防災士、駐在所署員、消防署員、役場の防災担当者、専門家（大学教員）



実際の取組

- ① 防災主任による避難訓練計画の説明、「避難訓練チェックリスト」概要部分の記載内容の確認（5分）
- ② 校内・校地内の参観場所へ移動（発災10分前に評価者の移動開始）
- ③ 避難訓練の参観・評価
- ④ 評価者は会議室・校長室等に戻り、「避難訓練チェックリスト」の記入（10分）
- ⑤ 校長・教頭・教務主任・防災主任等も参加し、安全委員会の開催（60分）
 - イ) 教職員の感想等の発表
 - ロ) 「避難訓練チェックリスト」に基づき、評価者の評価・所見の発表
 - ハ) 評価者から挙げられた課題に対し、教職員・評価者一丸となって改善の方策を検討
- ⑥ 次の避難訓練日時を確認・諸連絡、評価者解散
- ⑦ 職員会議にて、全教職員に評価者からの評価・所見および協議内容の共有

事後の感想

- 児童・教職員が、緊張感を持って避難訓練に臨むことができるようになった。
- よくできているところや改善されたところを、地域住民等に認めて褒めてもらえるので、教職員が自信を持つことができるようになり、子供たちにもより多くのフィードバックができるようになった。
- 学校と地域住民等の間で共通の話題ができ、普段から防災について話し合うようになった。
- 評価者同士の横の繋がりができ、避難訓練に限らず地域に関する事柄全般についても、安全委員会の場を活用し、積極的に意見交換が行われるようになった。
- 地域住民が、進んで、継続的に避難訓練に参加してくれるようになった。
- 校内組織だけでなく、地域のことをよく知る地域住民や専門家等と課題について協議をすることができるので、地域の実情を踏まえたより実践的な方策を検討することができるようになった。
- 避難訓練以外の学習についても、地域住民が協力してくださるようになった。
- 学校・評価者同士の信頼関係が築かれ、より建設的な議論ができるようになった。



【みやぎ避難訓練指導パッケージ】（みやぎ避難訓練指導パッケージ作成委員会）

PDCAサイクルをいかした「避難訓練チェックリスト」

ダウンロード先 URL <http://drredu-collabo.sakura.ne.jp/>

